一　次の文章を読んで後の問いに答えよ。

現代の都市は人がただ住むための空間ではなく、住むことがそのまま価値の生産に繋がるひとつの装置だ、ということである。生産されるのは知識や技術や、美的な趣味であり、広く情報と呼ばれている価値である。古代ギリシアやルネサンスの西洋を見ても、科学と芸術が劇的にAコウ隆したとき、そのア揺籃となったのはいつも都市であった。近代工業時代の二百年余、都市は一時的に労働力が住むための空間に化したが、この例外的な時代が過ぎたいま、ふたたびその1本来の役割に帰ることが求められている。

都市が精神的な創造の場になりうるのは、第一にここでは、個人の自由と安定が両立するからである。古いムラには、人の暮らしに安定はあっても自由はなかった。自由を求めれば外に流離するほかはなく、2そこにはもとより安定はなかった。だが、精神の溌剌さには自由が不可欠であり、持続的な活動には安定を欠くことはできない。縛られた思考は固定観念を脱することができず、孤独に想像力はB独ゼンに陥りやすい。その双方を避けて真の創造性を保つためには、3都市の匿名性と、同時に豊富な社交の機会が必要なのである。

第二に、都市ではいわば無構造な情報が生まれ、発信者と受信者の区別のない、いわば非線型の対話を形成する。噂や流行や盛り場の空気といった、4目次も句読点もない情報が溢れ、誰から誰にともなく署名なしに伝えられる。これは一面では、大衆社会のイ軽佻浮薄と表裏をなすが、創造的な才能にとっては、飛躍のために不可欠の刺激となるものである。

さらに、都市の人口集積は思想や趣味の多様化を許し、少数者の精神活動を物質的に支えることができる。かりに、オペラの愛好者が全国民の一パーセントあるとして、その維持に十万人のCセン在観客が必要だとすれば、この芸術は一千万人の大都市でなければ生存できない。ところで、文化がたんなる流行を超え、伝統と未来をつなぐためには、そのときどきの時代の少数者の存続が絶対条件なのである。

過去二百年、都市は消費の場所であり、せいぜい労働力の再生産の場所と見なされていた。だが、都市学者のジェイン・ジェイコブスも言うように、都市は昔からその消費によって価値を創造し、工業生産の目的と技術を生みだしていた。近代の実用的な大技術は、ほとんどが都市の贅沢、無用の遊びのなかにD起ゲンを持っていたという。いわんや今日、転換期の日本にとって、こうした機能を持つ都市は、まさに死命を制する生産の場所となった。基礎技術とデザインを西洋から輸入し、ものを作って輸出していた従来の日本は、アジアがものを作り、西洋が知恵を売り渋る時代に、このままでは生きる途がないからである。

いうまでもなく、ここでいう都市とは具体的な人口集積地のことであるが、同時に社会のあり方の名前でもある。それは、堅い一元的な「組織」の反対概念であり、内部に複数の秩序を含みうるような、柔らかい人間関係の場所を意味している。古いムラでは、個人は唯一の集団に全身で帰属し、職業、教育から文化、福祉まですべての点で一元的に依存していた。都市では、個人は目的ごとに違った集団に属し、その規制力を相対化することによって、集団そのものを穏やかなウ紐帯に変えることができる。そこでは、人間は集団的な(注)ファナティズムからも解放されて、かつて吉田兼好が都市市民の特色とした、5ものごとを「よそながら見る」、心の余裕を持つことができるはずなのである。

山崎正和『世紀末からの出発』による

(注)ファナティズム　熱狂　狂信

問一　傍線部A～Dの熟語のカタカナの部分の漢字として適当なものを次の①～④の中から一つ選び答えよ。

解答番号　A1　B2　C3　D4

A　コウ隆　①興　②公　③硬　④巧　　B　独ゼン　①然　②禅　③繕　④善

C　セン在　①専　②選　③潜　④千　　D　起ゲン　①原　②源　③限　④幻

問二　傍線部ア～ウの言葉の意味として適当なものを次の①～④の中から一つ選び答えよ。

解答番号　ア5　イ6　ウ7

ア　揺籃　①時代の流れに逆らう保守派　②物事の発展の初めの時期　③側面からの手助け　④時代変化の際のうねり

イ　軽佻浮薄　①固定観念を取り払う自由な民衆の雰囲気　②身分の軽重を問わず対等な関係であること　③創造のひらめきを内面から支えること　④思慮や落ち着きがなく軽はずみなこと

ウ　紐帯　①いくつかのものを結びつける大切なもの　②規制の緩い集団
③母親と結びついている絆　④職業集団の結びつき

問三　傍線部1「本来の役割」の説明として適当なものを次の①～④の中から一つ選び答えよ。　解答番号 8

①　労働力を供給すること　②　多くの人々が住むこと
③　知識や技術や芸術を生みだすこと　④　人口を集積させること

問四　傍線部2「そこ」の指す内容として適当なものを次の①～④の中から一つ選び答えよ。　解答番号 9

①　労働力が住むための空間　②　流離して行く先
③　全身で帰属するムラ　④　精神的な創造の場

問五　傍線部3「都市の匿名性と、同時に豊富な社交の機会が必要なのである」とあるが、それがどのように役立つのかの説明として適当なものを次の①～④の中から一つ選び答えよ。　解答番号 10

①　匿名性は少数者の精神活動を支えるのに役立ち、豊富な社交の機会は文化の継承と発展に役立つ
②　匿名性は真の創造性を保つのに役立ち、豊富な社交の機会は独りよがりの創造性の醸成に役立つ
③　匿名性は固定観念を脱することに役立ち、豊富な社交の機会は持続的な経済活動の発展に役立つ
④　匿名性は精神の自由を保つのに役立ち、豊富な社交の機会は創造性の独りよがりを防ぐのに役立つ

問六　傍線部4「目次も句読点もない情報が溢れ、誰から誰にともなく署名なしに伝えられる」の説明として適当なものを次の①～④の中から一つ選び答えよ。　解答番号 11

①　根拠も責任もない情報や社会の雰囲気といった曖昧なものが雑多に入り乱れていること
②　噂や流行や盛り場の空気など、構造が明確でない情報が多様な趣味の世界を生みだしていること
③　整然とは整理されないが確かな情報が不特定多数の発信者から不特定多数の受信者へ伝わること
④　線ではなく面の対話から生まれた雑多な情報がとりもなおさず都市の文化であるということ

問七　傍線部5「ものごとを『よそながら見る』、心の余裕」ができる理由として適当なものを次の①～④の中から一つ選び答えよ。　解答番号 12

①　都市の贅沢、無用の遊びという、ムラではできない遊びの感覚で都市の人々はものをとらえ物事を深刻に物事を考えないから
②　都市は人口が多いので、職業、教育、文化、福祉などすべての点で一元的に依存でき、煩雑な日常の雑事から解放されるから
③　都市では人々が、職能や技芸など自分の目的に応じた組織に多重に所属できて多様な視点から物事を捉えることができるから
④　都市の人々はいくつもの目的集団に所属しているため、一つの揺るぎない信念でものを見ることができる反面、視野が狭くなるから

## 二　次の文章を読んで後の問いに答えよ。

私は1「小さいころから始めたほうが伸びる」というのは疑問に思っている。何事も年齢が上がってから覚えた人は、感覚よりも知識に頼る傾向がある。だからといってダメというわけではない。将棋の世界では、将棋の質がどんどん変わっていっており、フォームを矯正しなくてはならない場面が必ず訪れる。小さいころに身につけたフォームを新しく変えるのは大変だ。2感覚より知識で覚えていたほうが忘れやすいので、次を受け入れやすいということもある。自分のスタイルを新しくすることができるし、進歩や変化にアテキ応しやすいといえ

るだろう。

二年生の夏休みに、地域の小学生の将棋大会の広告が新聞にイ掲サイされた。それに参加したのが、本格的に始めたきっかけである。当然、予選ですぐに負けてしまったが、それから土曜日の午後に道場に通い始めるようになった。家族と出かけ、私が道場で将棋を指している間、両親と妹は買い物に行き、終わる頃に迎えにきてくれた。

その道場では普段八級からスタートするのだが、そのときに座主がつけてくれたのが、十五級である。私が幼かったこともあるだろうが、実力よりも低いところからスタートして、昇級していく楽しみを与えたほうがいいという座主の配慮であった。

将棋に限らず習い事は、自分が少しずつでも進歩しているのがわかるとウケイ続できるが、足踏みし上達しないと嫌になってしまう。「上達する」という喜びが「次の目標」に向かう頑張りになるのではなかろうか。私は十五級から、道場に通うごとにクラスが上がっていった。

今考えると、【A】が、私を将棋の世界へエ没トウさせるきっかけの一つになったと思う。

私の師匠は、二上達也先生である。

小学校五年生のときに、将来、プロの道を選択するかどうかの岐路に立った私と両親は、先生の門をたたいた。将棋のプロになるには、養成機関である(注)奨励会に入らなければならない。当然のことながら誰にも入会のオ門コが開かれているわけではない。試験を受けるには、プロ棋士の推薦が必要であった。先生に(注)飛車落ちで指していただき、私が勝利して終わったが、そのときには正式な入門許可を与えてもらえなかった。

先生は、「一年待って、それでも情熱を失わなければ、そのあとで奨励会に入っても遅くない」と母親を説得したのだ。そのことは後で知った。

将棋界には、昔から師匠が弟子と将棋を指すのは、入門の時とやめるときの二回という慣習があった。やめるときにはわざと負けて、「将棋の腕はこんなに上達したのだから、他の世界でも十分に活躍できる」と【B】たという話も聞いている。奨励会には年齢制限があるが、それも早めに進路を変えたほうがその人間にとってプラスになるだろうという考えからだ。確かに厳しいが、一人の人間の将来を考えると思いやりといえるのではなかろうか。

二上先生とは、その後、奨励会の二段のときと、プロになって五段のときの計三回しか指していただいていない。

将棋界では、ふつう師匠が【C】て弟子に教えることはない。翌年に正式に入門してからも、先生には「こうしなさい、ああしなさい」といわれたことはないし、怒られた記憶もまったくない。

先生は、弟子の将棋や生活態度を見ていると「この場面の考え方はどうかな」「将棋にもっと真剣に取り組まなくては……」などと思うことはよくあるそうだ。だが、それを本人に直接言っても意味がないと考えておられる。先生から見て「こうしたほうがいい」というポイントがあっても、本人が自分で気づかないと上達しないというのだ。師匠の奥さんは「そうはいっても、ずっと気づかない人もいるのだから、口に出して教えなきゃわからないわ」とおっしゃるそうだが、自分で苦労して自分なりの方法を見つけろというのが、先生の考え方のようである。

最近の子どもは、教えてもらわないとうまくならない傾向があるとよく聞く。たとえば、子どもに問題を出すと「まだ習っていない」からと、自分の頭で考えようとしない。

将棋の場合は特にそうだが、どの世界でも、教える行為に対して、3教えられる側の依存度が高くなってしまうと問題である。将棋は、自分で考え、自分で指し手を決めていくものだ。誰かに教わってそれをそのまま真似たり、参考にしてやっていくことが習慣化してしまうと、局面を考える力は育たなくなってしまう。

どうしても強くなりたい、前進したい、そういう向上心が大本にあり、自分の頭で真剣に考え、ここだけはどうしてもわからない、解決の道が見いだせないというのであれば、師匠や先輩に相談することは決して悪くはないと思っている。だが、そうではなく、受け身の姿勢だけでただ教わるというのでは、集中力や思考力、気力といった勝負に必要な総合的な力を身につけることはできないだろう。要は、本人がどういう姿勢で教わるかが大事だと思っている。

羽生善治『決断力』による

(注) 奨励会　日本将棋連盟のプロ棋士養成機関である「新進棋士奨励会」のこと

(注) 飛車落ち　強力な駒である飛車を使わずに将棋を指すこと

問一　傍線部ア～オの熟語のカタカナの部分の漢字として適当なものを次の①～④の中から一つ選び答えよ。

解答番号　ア 13　イ 14　ウ 15　エ 16　オ 17

ア　テキ応　【①摘　②敵　③滴　④適】　イ　掲サイ　【①再　②歳　③載　④裁】
ウ　ケイ続　【①経　②継　③警　④携】　エ　没トウ　【①頭　②糖　③投　④登】
オ　門コ　【①戸　②庫　③固　④顧】

問二　【A】に入る言葉としてとして適当なものを次の①～④の中から一つ選び答えよ。　解答番号 18

①　家族の激励　②　同僚への敵愾心　③　目標への達成感　④師匠の叱責

問三　【B】、【C】に適するものを次の①～⑨の中から一つ選び答えよ。　解答番号 【B】19 【C】20

①景気を付け　②面目を一新し　③組んずほぐれつし　④薮をつついて蛇を出し　⑤口車に乗せ
⑥引導を渡し　⑦顔を利かし　⑧矢面に立つ　⑨手取り足取りし

問四　傍線部1「小さいころから始めたほうが伸びる」という人の考えとして適当なものを次の①～④の中から一つ選び答えよ。　解答番号 21

①　年齢が上がって稽古事を始めた人は勘に頼るので考えすぎるという考え
②　勝負の感覚は理屈で分かるより幼いときから体で覚えた方がよいという考え
③　幼い子は勝負への欲がなくて無心に将棋の世界に没頭できるという考え
④　余計な知識がない幼いうちに将棋だけを考える脳にする方がよいという考え

問五　「感覚より知識で覚えていたほうが忘れやすいので、次を受け入れやすい」の趣旨として適当なものを次の①～④の中から一つ選び答えよ。　解答番号 22

①　体で覚えたことはなかなか抜けきれないので自己革新には対応しづらい面がある
②　頭で理解したことは早く忘れやすいので、常に教育し直し続ける必要がある
③　感覚的に何となく覚えた勝負勘はこだわりがない分負けても精神的に傷つきにくい
④　子どもの時に感覚で身につけたことは容易に抜けないので、幼いときの訓練が重要だ

問六　「教えられる側の依存度が高くなってしまうと問題である」の意味として適当なものを次の①～④の中から一つ選び答えよ。　解答番号 23

①　自信を持ちすぎている弟子は、師匠の指導を受容しないので、思考力や勝負に必要な精神力などといった総合的な力に限界がある
②　師匠が弟子に期待をしすぎると、弟子の主体的な思考力や、勝負に必要な精神力などといった総合的な力を身につけることが難しい
③　師匠や親の期待を一身に背負った弟子は、精神的重圧に耐えかねて、主体的な思考力や他者に負けたくないという気力がなかなか育たない
④　師匠から教わるのを待っている弟子は、主体的な創造力や思考力、勝負に必要な集中力や、気力といった総合的な力を身につけることが難しい

## 三

慣用句を含む次の各文の（　）に入る言葉として適当なものを次の①～④の中から一つ選び答えよ。　解答番号 ア24 イ25 ウ26 エ27 オ28

ア　この会の一員として末席を（　）事は私にとって大変名誉です　【①晒す　②濁す　③汚す　④譲る】
イ　病弱のため定職がなくアルバイトをして糊口を（　）　【①塞ぐ　②凌ぐ　③貼る　④注ぐ】
ウ　冬山の歯の根が（　）ような中から無事救出された　【①乾かない　②合わない　③揺らぐ　④生えない】
エ　相手チームの機先を（　）て攻撃したのが勝因です　【①束ね　②抑え　③制し　④捉え】
オ　優しい親方も弟子の不真面目さに遂に匙を（　）　【①投げた　②曲げた　③舐めた　④洗った】

## 四

次の各熟語の構成として適当なものを後の①～⑤の中から一つ選び答えよ。

ア　頻出　解答番号 29　　イ　享受　解答番号 30　　ウ　施錠　解答番号 31　　エ　授受　解答番号 32
オ　親疎　解答番号 33　　カ　隠匿　解答番号 34　　キ　無礼　解答番号 35　　ク　酷似　解答番号 36
ケ　旧暦　解答番号 37　　コ　賢察　解答番号 38

①同じような意味の漢字を重ねたもの　②反対または対応の意味を重ねたもの
③上の字が下の字を修飾しているもの　④下の字が上の字の目的語・補語になっているもの
⑤上の字が下の字の意味を打ち消しているもの

## 五

次の熟語の対義語として適当なものを後の①～⑨の中から一つ選び答えよ。

ア　左遷　解答番号 39　　イ　賢明　解答番号 40　　ウ　怠惰　解答番号 41　　エ　流行　解答番号 42　　オ　過激　解答番号 43

①不易　②右顧　③懸命　④栄転　⑤穏健　⑥暗愚　⑦英知　⑧勤勉　⑨廃止

## 六

次の各文の傍線部の漢字として適当なものを後の①～④の中から一つ選び答えよ。

ア　筆を｜トって故郷に手紙を書く　解答番号 44　①録　②取　③採　④執
イ　モト｜をただせばみんな私が悪い　解答番号 45　①素　②元　③基　④本
ウ　昔から手ガ｜タい商売をしてきた　解答番号 46　①固　②堅　③硬　④難
エ　議会に｜ハカって審議してもらう　解答番号 47　①諮　②計　③図　④量
オ　「あの人はなかなか気がキ｜くねえ」　解答番号 48　①訊　②効　③利　④聞

## 七

次の四字熟語の意味として適当なものを後の①～⑨の中から一つ選び答えよ。

ア　一陽来復　解答番号 49　　イ　海千山千　解答番号 50　　ウ　月下氷人　解答番号 51　　エ　羊頭狗肉　解答番号 52　　オ　判官贔屓　解答番号 53

①不幸が去って幸いがやってくること　②経験豊富で悪賢いこと
③大変ぜいたくな食べ物のこと　④一つの行為で同時に二つの目的を果たすこと
⑤見かけだけ立派で実体を伴わないこと　⑥不遇なものや弱者に味方すること
⑦結婚の仲人のこと　⑧恥知らずで厚かましいこと
⑨落ち着いていて物事に動揺しないこと

## 八

次の文章中の（ア）～（オ）にあてはまる語として適当なものを後の語群①～⑨の中から一つ選び答えよ。

ア 解答番号 54　イ 解答番号 55　ウ 解答番号 56　エ 解答番号 57　オ 解答番号 58

大正期は、明治期に展開した近代文学が成熟した時期であると同時に、新しい文学の流れが生まれた時期でもある。その流れとしては、理想主義・人道主義の立場に立つ（ア）派の文学がまずあげられる。一方それとは対照的に（イ）主義の流れがあった。芥川龍之介らの（ウ）派や葛西善蔵らの（エ）派である。また、大正末期には昭和期に展開する（オ）文学運動や、新感覚派の文学運動が芽生えた。

①デモクラシー　②プロレタリア　③新現実　④耽美　⑤虚無
⑥奇蹟　⑦翼賛　⑧新思潮　⑨白樺